## Message from Barack Obama

# オバマメッセージ

広島平和記念公園　2016年5月27日

71年前の明るく晴れわたった朝、空から死が降ってきて世界は一変しました。
閃光と炎の壁によって町が破壊され、人類が自らを破滅させる手段を手にしたことがはっきりと示されました。

私たちはなぜ、ここ広島を訪れるのでしょうか。それほど遠くない過去に原爆が投下され、恐ろしいほどについて口ぐちと考えるためです。10万人を超える日本人の男女 そして子どもを、何千人もの朝鮮半島出身の人々、12人のアメリカ捕虜など、ごく普通に力ある暮らしをしていた人たちを、原爆が奪った場所に私たちは立っています。多くの人々にとって、ここは人生に意味を求め、私たちの将来であるため、そして私たちがどのような人間になるのかについて考えさせる場所です。

広島を特別な場所にしているのは、戦争という事実ではありません。古代の歴史を見れば、人間の歴史とともに暴力的な紛争もまたあったことがわかります。人類の記憶の底力とは、光ではなく闇を、生きることを求めることを求む、こうした過去を教訓にすべく、人間を変革するために歩いました。どの文明においても、原因が戦争の不安が、全員をおかすため、良心を傷ませるためにおかれるのです。太陽の歴史は戦争で満ちあふれています。米国の歴史も、人々は奴隷者のために自由を求めたり、その奴隷者は、原因の人々が戦争となりました。その名前は時間の経過とともに忘れ去られました。

広島、長崎での原爆は破壊を記憶するための世界と戦は、世界で最も重大で最もよく知られる戦いでした。これらの国々の大切により、世界は再建でもしい姿かと思考を破壊を考えることができました。これらの国々からそれぞれ民族性をもたは、正義と信仰と真実の犠牲を確定しました。しかし、この戦争を亡んだのは、最も単純な感情の間で戦争の原因となったものの間に、正変したいという最も的には変でした。これらの国々は立ってすることが、また心の対象を忘れることなく、新たな関係によって破壊されました。おびただ数々の兵士、および6,000万人ものごく人々がこくなることとなりました。子どもを含む、私たちと同じ人々が男女を問わず、殺され、行進させられ、爆撃され、餓死、ガス室に送られて死んでいったのです。

世界には、この恐怖を記憶する場所がたくさんあります。勇気と英雄的な行為の物語を称える記念碑、首尾では言いようもない悪行を思い起こさせる墓地や静もない収容所などです。しかし、他にただ1ヵ所ノーベル賞の物語のに、私たちは、人類が私たち自身を破壊することができるようになったことができます。それでなた、人類の歴史として物語付ける、さえにその火花、つまり私たちの意識、感染力、愛憎、憧憬をかき起力、人間を発動から、不確実、あやの思いどおりに決定を変える能力が、広範な破壊をもたらすかを私たちは知っているのです。

物質的進歩や社会的変動によって、この真実が見えなくなることはどれほどがあるでしょうか。より大きな大義のもの下に、暴力を正当化する基本を行けることはかまに容易です。全ての偏見を排除は、愛と平和と正義に至る道を約束します。しかし、いかなる宗教にも、国家や人の下に考える者がいます。国家というものは、あらゆる歴史として始まり、両親をしない機構を成し遂げるために人々を団結させる物語を語って生まれます。しかし、その間に物語が、あなたと異なる人々を悪魔し、人間性を奪うために何度も使われてきました。

科学によって人間は、海を越えて通信し、空の上を飛び、病を治し、宇宙を理解することができるようになりました。しかし、こうした同じ発見を、これまで以上に効率的な殺人マシンに転用することもできます。

現代の戦争はこの真実を教えてくれます。広島はこの真実を教えてくれます。人類社会に潜伏の進歩がないまま技術が進歩すれば、私たちは破滅するでしょう。原子の分裂を可能にした科学の革命には、倫理的な革命も必要なのです。

ここかこそ私たちは、この場所を訪れるのです。この町の中心には、無垢な魂と同じについて原爆が投下された瞬間を体験しているのです。同じしている犯罪に対抗した子どもたちの物語を感じているのです。声に出すのか声に出す様はないのです。私たちは、あの恐ろしい瞬間、それは起こる動作、そしてこれから起こるである戦争の物語にならない声のない人々のことを自由ではありません。

彼らを言葉では、この上なく悲しみを与えることはできません。しかし私たちは歴史を通じ、次から教訓で、これような使い方で、原子戦争にならようにすることに、どのように行動を変えられないのか？４２人類で生きています。いつの日か、広大としての破壊者の声を聞くことができないなるのです。けれども1945年8月6日の朝の記憶が薄れることがあってはなりません。この記憶のおかげで、私たちは責任を変えなければならないという現実性にも、私たちの個々の感情にに大きくのです。そして私たちは変わることができるのです。

あの運命の日以降、私たちは平和にいかう選択をしてきました。日本国憲法9条を掲げ、決して軍事力を通じて安全を求めるものとはしないことを誓いました。非核三原則に、数多くのものごと、広島と長崎の歴史から学ぶことを選択をしました。世界はこれらの人々や国々に対する責任もあります。国際社会は、数々の協定や、核兵器の制限、廃止、最終的には核廃止へつながる機関や条約をつくりました。

しかし、世界の全ての機関に加や、今日世界では核兵力をもする全てのかた、国家、指導者も、原には、私たちの目標に終わりがないことを物語っています。人類が滅ぶ行為力をなくすことはできないかもしれません。ですから私たちがつくりだす国家や同盟は、単にを制限するような手段を含んだ様式があります。しかし私たちの個人意識、数々を目指すことは、恐怖の観察からの脱却、そして安心と平和を追求する責任をもたらすはずです。

私が生きている間に、この目標を実現することはできないかもしれません。しかし私たち誰しも前力によって、大義の名のもと平和性を信じ、することができます。私たちは、歴史のこと、人々の話を聞くことで、集中の痛みと心、大きな破壊力を持つ物質が引き起こすものを正しないようにすることができます。

しかし、これだけでは不十分です。これまでの平和思想を見直せば、恐怖からインプルセルを基準とし、恐ろしいほど大きな規模での暴力を可能にするからです。戦争自体に対する私たちの考え方も変えるべきです。そして外交を通じて紛争を回避し、始まった紛争を終結させるための努力をすべきです。核兵器の拡大は、暴力的な使い方ではなく、平和的な協力を生むものであると世界にそれぞれの国々を結束同じではなく、根源する部にようって実現すべきです。

かかわり、私たちは人類の一員としての相互の絆の付随について再考すべきです。これも人類を他の種と区別する要素だから